ごあいさつ

誰もが通勤通学に利用する電車内で起きている痴漢犯罪。被害者の73.2%が10～20代の女性です。高校生や大学生が被害者の大半を占めているのです。

電車内痴漢犯罪は、周囲に大勢の人がいる中で起きる性犯罪です。被害者が多い犯罪行為であるにも関わらず、100年以上解決策が見つからずにいます。そこには、いくつもの複合的な理由があります。

私たちがとりわけ大きな原因と考えているのが、「社会が痴漢問題に関して共通の認識を持っていない」ということです。

男性と女性で、痴漢に対する意識や考え方は大きく違います。

年代によっても認識が違います。痴漢被害にあったことのある女性も、娘に自分の体験を伝え、身を守る術を伝えることは稀です。

誰にも相談できずに被害者が口を閉ざしてしまうため、痴漢犯罪の実数や現状が公になることがありません。このような状況下では、痴漢犯罪に対する共通認識は生まれません。

私たち、痴漢抑止活動センターは、こうした現状を踏まえ、学生を対象とした「痴漢抑止バッジデザインコンテスト」の実施で、痴漢問題に対する共通認識を育て、社会の意識を変えることで問題解決を目指します。

そして、いつかバッジがなくても、安心安全な社会の実現を願っています。1人でも多くの方に、痴漢抑止バッジの普及活動にご賛同いただき、一緒に問題解決にあたりたいと望んでおります。

一般社団法人 痴漢抑止活動センター
代表　松永 弥生

私たちが、目指す未来

バッジがなくても、誰もが安心安全な心地よい車内

寄付・協賛のお願い

私たちの活動は、痴漢抑止バッジの販売と皆様のご支援で成り立っています。
痴漢抑止活動センターの活動趣旨にご賛同いただけましたら、ご支援・ご協力をお願い致します。

- バッジの販売店
- コンテストご協賛企業

募集

あなたにできること

不要になった本を送って支援

寄付で支援

バッジを購入して支援

お問い合わせ先

〒541-0051　大阪市中央区備後町 3-6-2 大雅ビル 10F-242
06-7898-7808　FAX:06-7635-7631
info_scb@scb.jpn.org　http://scb.jpn.org/

痴漢抑止活動センター　検索

一般社団法人
痴漢抑止活動センター

女子高生考案！

痴漢抑止バッジの挑戦

一般社団法人
痴漢抑止活動センター

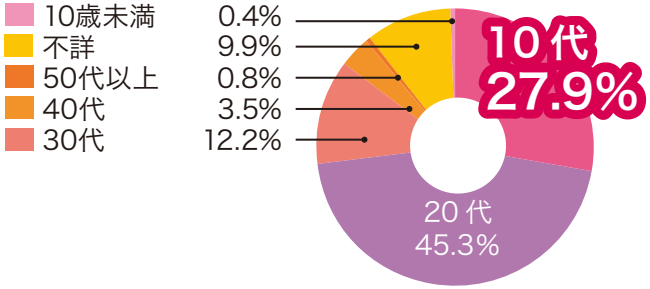
女子高校生が痴漢のターゲットに！

痴漢は、大人が子どもに対して行う性的虐待です。

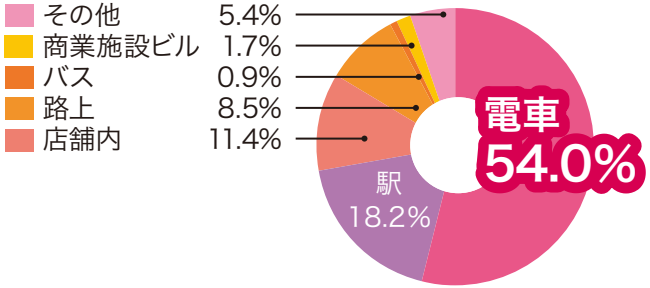
下記のグラフから、登下校の時間帯に駅構内・電車内において10～20代の女性が、痴漢被害にあっていることが分かります。

※出典：警視庁「こんな時間、場所がねらわれる（2016年3月31日）」より

年齢別被害状況

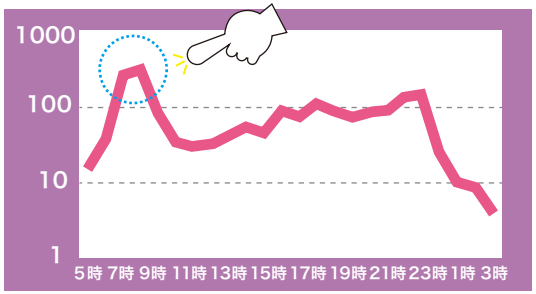


場所別発生状況



時間別発生状況

痴漢は、午前7時から午前9時の通勤通学時間帯に約30%が集中して発生しています。



私たちの活動概要

電車内痴漢犯罪を学生のデザインで解決。

バッジのメリット

1 痴漢被害にあわない。
2 痴漢加害者を生まない。
3 冤罪被害者もつくらない。

痴漢問題を加害者と被害者だけの問題にしない。そのために、学生を対象とした「痴漢抑止バッジデザインコンテスト」を実施、入賞作品を製品化します。警察、電鉄会社、企業と協力し、痴漢抑止バッジの普及を通じて、社会の認識を変え、痴漢犯罪が起きない社会を目指します。

痴漢抑止バッジデザインコンテスト2016

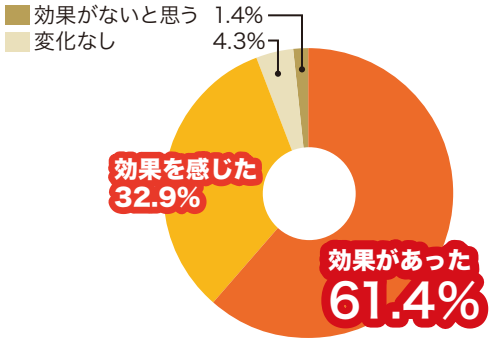
●最優秀賞受賞作品

桑沢デザイン研究所　神崎 遥さん

「どうせ悲鳴をあげないだろう」と、女性の体を“パーツ”と考えて手を出してくる痴漢。少女は髪を逆立て怒りの表情で、加害者をにらみつけています。

●入賞作品

痴漢抑止バッジ使用者の声



浦和麗明高等学校70名の声を集計。
（2016年4月～12月）

痴漢抑止バッジをつけてから、安心して電車に乗れるようになりました。

痴漢抑止バッジのおかげで、身体的・心理的に守られていると思います。

痴漢抑止バッジをつけることによって、意志が強くなり痴漢にあいにくくなったと思います。

とても可愛いデザインだったので、抵抗なくかばんにつけることができました。

痴漢抑止バッジを身につけてから、痴漢に一回も遭遇しませんでした。ありがとうございました。

痴漢抑止バッジをつけてから、周りに女性の方が立ってくれるようになりました。